一般社団法人日本ソフトウェア科学会 2020 年度定時社員総会

1. 日　　時　　2020 年 6 月 15 日（月）18：00～19:00

2. 場　　所　　オンライン開催

3. 議　　案

　　第 1 号議案　　2019 年度事業報告の承認の件
　　第 2 号議案　　2019 年度決算の承認の件
　　第 3 号議案　　2020～2021 年度役員の選任の件

4. 報告事項

　　1. 2020 年度事業計画の件
　　2. 2020 年度予算の件

以上

Japanese Society for Software Science and Technology

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
一般社団法人学会支援機構内
jssst@asas-mail.jp | P 03-5981-6011 | F 03-5981-6012
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13

2019 年度事業報告

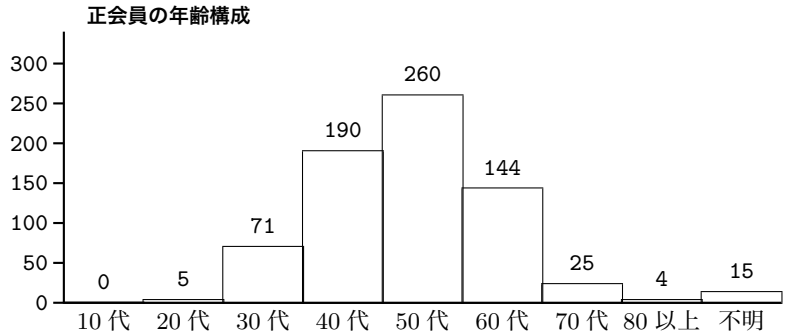
1. 会員

2020 年 3 月 31 日現在の会員状況は次の通りである．

正会員	721名	準会員	17名
名誉会員	13名	団体会員	5団体
学生会員	35名	賛助会員	3社

2019 年 3 月 31 日時点での正会員数は 745 名であり，そこから 24 名減少したことになる．

正会員の年齢構成を次のグラフに示す．50 才以上の正会員が 58%程度，40-49 才の正会員が 30%程度，30-39 才の正会員は 10%程度である．なお，20 代の正会員が少ないが，学生会員の多くは 20 代であろう．



2. 会議の開催

2.1 総会（2019 年度）

日　時：　2019 年 6 月 10 日（月）18:00〜19:00
場　所：　国立情報学研究所 12 階 1208 号室
出席者：　代表会員 36 名（委任状を含む）（代表会員総数 44 名）
議　案：　第 1 号議案　2018 年度事業報告の承認の件
　　第 2 号議案　2018 年度決算の承認の件
　　第 3 号議案　2019–2020 年度役員選任の件

議決の定数を超える 36 名（委任状を含む）の出席があり，丸山宏理事長を議長に，第 1 号議案，第 2 号議案を審議し，決算が適正であるとの 2018 年度監事の報告を受けて，満場一致でこれらを承認した．続いて第 3 号議案について審議し，役員候補者選挙で選出された役員候補者を役員として選任することも満場一致で議決した．

なお，総会終了後には名誉会員記の授与式が行われ，新名誉会員の武市正人氏，二木厚吉氏，玉井哲雄氏へ名誉会員記が理事長から手渡された．

2.2 理事会・役員会

理事会は，第 42 回（2019–05–20）から第 46 回（2020–03–17）まで 5 回開催した．役員会は，第 56 回（2019–05–20）から第 62 回（2020–03–17）まで 7 回開催した．2019 年度の理事及び監事は次の通りである．

理事長　増原英彦
副理事長　高田眞吾
理　事　綾塚祐二　石川冬樹　石橋圭介　井上拓　岩崎英哉

	鵜林尚靖	馬谷誠二	大圓忠親	風間一洋	光来健一
	高橋伸	野田夏子			
監　事	大場みち子	吉岡信和			

2.3 評議員会

平成 31 年度（2019–08–28）評議員会を芝浦工業大学にて開催し，学会運営について討議した．評議員会開催時における評議員は次の通りである．

牛島和夫	大沢英一	大堀淳	大蒔和仁	大和田勇人
筧捷彦	片山卓也	亀山幸義	佐々政孝	佐藤周行
佐藤雅彦	柴山悦哉	武市正人	田中英彦	田中譲
玉井哲雄	近山隆	土居範久	都倉信樹	所真理雄
中島震	中島秀之	中田育男	橋田浩一	平田圭二
深澤良彰	二木厚吉	二村良彦	本位田真一	溝口文雄
森下真一	米崎直樹	米澤明憲		

3. 事業

3.1 機関誌編集

第 352 回（2019–04–12），第 353 回（2019–05–24），第 354 回（2019–08–30），第 355 回（2019–12–05），第 356 回（2020–02–18）の 5 回の編集委員会を開催し，学会誌「コンピュータソフトウェア」第 36 巻第 2〜4 号および第 37 巻第 1 号を発行した．これらは全てサイバー増大号であり，冊子体とサイバーページ（電子出版）から構成した．また,「ソフトウェア工学の基礎」(第 36 巻第 4 号) ,「実践的 IT 教育」「プログラミングおよびプログラミング言語」「ソフトウェア論文」(いずれも第 37 巻第 1 号）の特集を組んだ．

著作権規定を改訂し，本会に著作権が帰属する投稿著作物の翻訳物を著作者等自身の Web サイトに掲載する場合の扱い (非公式訳であることの明示，本会への届出等) について明記した．また，Web サイトに同時に掲載する出典の例，利用上の注意事項 (いずれも英文) の例文も示すこととした．

論文執筆要項を改訂し，多色刷りが必要な投稿論文については編集委員会に問い合わせる旨を明記した．

推薦論文の企画について，投稿期限の扱いに関する運用上の注意点を明文化し，ホームページに掲載した．

消費税率改正に伴い,「コンピュータソフトウェア」誌の年間購読料 (概算) を改訂した．

第 24 回研究論文賞として，以下の 2 件を選定した．

- 高田 峻介，志築 文太郎，高橋 伸:「導電繊維編み込み手袋を用いた手形状認識手法」Vol. 35, No. 3 (2018)
- 逢坂 美冬，上野 雄大，大堀 淳:「部分動的レコードを活用した型付きテンプレートエンジンの実現」Vol. 35, No. 3 (2018)

また，第 6 回ソフトウェア論文賞として，以下の 2 件を選定した．

- 鈴木 遼，長 幾朗:「Siv3D: インタラクティブアプリケーションのための C++フレームワーク」Vol. 34, No. 4 (2017)
- Yixiao Li，Yutaka Matsubara，Hiroaki Takada:「EV3RT: A Real-time Software Platform for LEGO Mindstorms EV3」Vol. 34, No. 4 (2017)

2019 年度の編集委員会の構成は次の通りである．

編集委員長	千葉滋				
編集副委員長	河内谷清久仁	河野健二			
編集担当理事	岩崎英哉	馬谷誠二			
編集委員	青木利晃	青谷知幸	阿萬裕久	綾塚祐二	五十嵐悠紀
	石井大輔	石川冬樹	鵜川始陽	大場みち子	河合栄治
	川端英之	粂野文洋	小宮常康	沢田篤史	島慶一
	住井英二郎	宋剛秀	高田眞吾	中澤仁	中野圭介
	花川典子	林晋平	松田一孝	松野裕	門田暁人
	横山大作	吉田則裕			

3.2 企画委員会

2019 年 5 月 23 日（国立情報学研究所）および 2020 年 3 月 12 日（Webex）の合計 2 回の企画委員会を開催した。さらに 2019 年度大会でチュートリアルを企画した。

2019 年度の企画委員は次の通りである。

企画委員長	風間一洋			
企画担当理事	風間一洋	綾塚祐二		
企画委員	青柳滋己	綾塚祐二	大越匡	來間啓伸
	角岡幹篤	前田直人	松野裕	横山大作

研究会リエゾン委員

伊藤貴之 (ISS)	栗原聡 (EIN)	東藤大樹 (MACC)
土肥拓生 (MLSE)	中里翔太 (rePiT)	廣海緑里 (ITECH)
松野裕 (DSW)	森畑明昌 (PPL)	吉岡信和 (FOSE)

3.3 大会

2019 年 8 月 27 日〜29 日に，芝浦工業大学芝浦キャンパスにおいて第 36 回大会を開催した．また 8 月 26 日には併設イベントを開催した．

招待講演，基礎研究賞特別講演，トップカンファレンス特別講演を企画した他，一般セッション，研究会セッション，デモ・ポスターセッションを設けた．基礎研究賞特別講演は第 32 回大会で，研究会セッションは第 27 回大会で導入したものをそれぞれ継承したものである．第 29 回大会から大会本体の登壇発表者の条件を緩和したことから，それ以前にあった「学生セッション」等は設置しないこととし，デモ・ポスターセッションにおいて「予稿なし」のみとすることも継承した．第 27 回大会で導入した学生奨励賞および第 34 回大会で導入した優秀発表賞も継承した．さらに，第 34 回大会で導入したスポンサー募集も継承し，8 社からの支援を得た．この支援は，発表者の旅費サポートや学生・若手研究者とスポンサー企業によるランチ交流会などにおいて有効活用された．

大会参加者は，151 名 (正会員 74 名，学生会員 8 名，一般非会員 13 名，学生非会員 39 名，招待講演者 2 名，基礎研究賞特別講演者 2 名，スポンサー枠 13 名) であった．発表件数は，招待講演 2 件 (まつもとゆきひろ氏，緒方広明氏)，基礎研究賞特別講演 2 件 (五十嵐健夫氏，萩谷昌己氏) ，トップカンファレンス特別講演 2 件，一般セッション 14 件，研究会セッション 34 件 (FOSE: 11 件，PPL: 10 件，MACC: 4 件，rePiT: 4 件，MLSE: 3 件)，デモ・ポスターセッション 12 件であった．また，

8 月 26 日に大会併設イベントとして，チュートリアル「深層学習のテスト」，PPL サマースクール 2019「ブロックチェーンと形式検証」の 2 件を開催した．チュートリアルへの参加者は 24 名，PPL サマースクールへの参加者は 71 であった．8 月 28 日にはランチ交流会を開催し，参加者は 39 名であった．

講演論文集は Web サイトで公開した．大会終了後，製本したものを講演論文集 (ISSN 0913-5391) として国立国会図書館に納本した．

大会における優れた登壇発表に対して与えられる高橋奨励賞は，次の 1 件である．

- 大堀 淳 (東北大学)：「SML#の動的型付け機構」

学生奨励賞は，次の 4 件である．

- 中丸 智貴 (東京大学)：「GitHub 上の Java コードにおけるメソッドチェイン利用の定量的な分析」
- Li Dongfang (東京工業大学)：「ASTToken2Vec: An Embedding Method for Neural Code Completion」
- 村田 康佑 (九州工業大学)：「高度な運算定理の Coq による証明とその自動化」
- 松井 健 (九州大学)：「敵対的サンプルに対するニューラルネットワークモデルの学習無し修正とその評価」

優秀発表賞は，次の 7 件である．

- 松永 智將 (東京大学)：「機械学習手法を用いた動的型付け言語のコード補完に向けて」
- Li Dongfang (東京工業大学)：「ASTToken2Vec: An Embedding Method for Neural Code Completion」
- 木下 修司 (神奈川大学)：「平塚市地域防災計画の整合性検査方式の研究 - 自治体防災業務へのソフトウェアエンジニアリングの応用 -」
- 大堀 淳 (東北大学)：「SML#の動的型付け機構」
- 土肥 拓生 (国立情報学研究所)：「PoC キャンバスを用いた仮説検証プロセスの管理手法」
- 森畑 明昌 (東京大学)：「パラメトリシティに基づくプログラム微積分」
- 中村 圭介 (ナレルシステム)：「少ない回答数のアンケートの選択肢および自由感想欄からの変数付ホーン節の学習」

第 36 回大会の役員は次の通りである．本大会では第 34 回で導入した運営副委員長，プログラム副委員長を設けた．本大会ではプログラム委員長が広報委員長を兼任した．

大会委員長	松浦佐江子
運営委員長	野田夏子
運営副委員長	福田浩章
プログラム委員長	伊藤恵
プログラム副委員長	住井英二郎，神谷年洋

プログラム委員

伊藤恵	住井英二郎	神谷年洋	石井大輔
前田俊行	栗原聡	門田暁人	伊藤貴之
藤本衡	清雄一	大囿忠親	吉崎亮介
石川冬樹	浜名誠	南出靖彦	中里翔太
橋本正樹	中澤仁	川端英之	

大会担当理事　　大囿忠親　　野田夏子

3.4 講習会

2019 年度は大会中のイベントとして、大会併設 PPL サマースクール、チュートリアルを開催した。チュートリアルは「深層学習のテスト」(2019 年 8 月 26 日) を実施した。

3.5 研究会

2019 年度は，次の 9 研究会が活動した．各研究会の主な活動は下記の通りである．なお，インターネットテクノロジー研究会（ITECH）は，今年度で解散する．

(1) 「プログラミング論」研究会（主査：南出靖彦）

第 36 回大会 PPL セッションの実施

発表 10 件 (通常発表 10 件) からなる 3 セッションを実施した．

第 17 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2019) の主催

日時：2019 年 8 月 26 日 (月) 10 時〜17 時

場所：芝浦工業大学芝浦キャンパス (日本ソフトウェア科学会第 36 回大会 併設)

テーマ：ブロックチェーンと形式検証

講師：古瀬 淳（ダイラムダ株式会社）

幹事：末永幸平（京都大学）

参加費：一般会員 2,000 円，一般非会員 3,000 円，学生会員 1,000 円，学生非会員 2,000 円

参加者：73 名 (一般会員 27，一般非会員 18，学生会員 1，学生非会員 27)

第 22 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2020) の主催

日時：2020 年 3 月 2 日 (月) 〜 4 日 (水)

プログラム共同委員長：平石 拓 (京都大学), 森畑 明昌 (東京大学) 組織委員長：佐藤 亮介 (九州大学)

開催形式：例年通りの合宿形式を予定していたが、新型コロナウィルス感染（COVID-19）の流行が危惧されたため、現地開催を中止し，発表予稿・発表資料の配付にとどめた．(招待講演を含む全ての発表予定者に発表資料の提出を求め，その提出をもって PPL2020 で発表されたものとみなした．ただし，カテゴリ 1 については予稿が提出されていることを鑑み，発表資料が提出されなかった場合でも発表したものとみなした.)

参加登録費：一般会員 15,000 円，一般非会員 21,000 円，学生会員 9,000 円，学生非会員 12,000 円（飲食代を除いた返金前の金額：現地開催を中止としたため半額を返金した.）

参加人数: 一般会員 55 名, 一般非会員 14 名, 学生会員 7 名, 学生非会員 91 名

発表数 (括弧内は現地開催時に予定されていた数)：招待講演 1(2)，カテゴリ 1 (国内外で未発表の論文の発表) 19(19)，カテゴリ 2 (国際会議・学術雑誌等で既発表の論文の紹介) 7(8)，カテゴリ 3 (ポスター・デモ発表) 70(82)，カテゴリ 4 (サーベイ・チュートリアルの発表) 1(1).

(2) 「マルチエージェントと協調計算」研究会（主査：大囿忠親）

2019 年度運営体制

a) 主査

大囿忠親 (名古屋工業大学)

b) リエゾン企画委員

東藤大樹 (九州大学)

c) 運営委員

櫻井祐子 (産業技術総合研究所)

清雄一 (電気通信大学)

第 36 回大会 MACC セッションの実施

日時: 2019 年 8 月 27 日-29 日

場所:芝浦工業大学芝浦キャンパス

発表件数: 4 件（1 セッション）

合同エージェントワークショップ & シンポジウム (JAWS2019) 共催

日時：2019 年 9 月 9 日 〜 9 月 11 日

会場：別府温泉 杉乃井ホテル

大分県別府市観海寺 1

Symposium on Multi Agent Systems for Harmonization 2020 (SMASH20) 開催（情報処理学会 ICS 研究会との共催）

日時：2020 年 2 月 17 日

会場：沖縄県青年会館

沖縄県那覇市久米 2 丁目 15-23

参加者数 26

（発表数 18）

その他

・クラウドソーシング研究会に協賛

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会（主査：伊藤貴之）

第 27 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2019) 主催

日時：2019 年 9 月 25-27 日

場所：ロイヤルホテル長野

プログラム委員長：伊藤貴之

実行委員長：西田健志

副実行委員長：五十嵐悠紀

その他

・コンピュータソフトウェア誌への WISS 2019 推薦論文の提案 （WISS2019 のロングペーパー採録論文のうち 4 件について著者へ投稿を推奨した）

・情報処理学会インタラクション 2020 に協賛

・エンタテインメントコンピューティング 2019 に協賛

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：門田暁人）

第 26 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2019

日時：2019 年 11 月 28-30 日

場所：岐阜県下呂市
プログラム委員長：
森崎 修司（名古屋大学），大平 雅雄（和歌山大学）
主催： 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会
共催： IEEE Computer Society Japan Chapter
協賛： 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会
電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会
電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究会
投稿数：フルペーパー 15 件，ショートペーパー 7 件，
ライブ論文 25 件，デモ・ポスター 33 件
合計 80 件
参加者数： 107 名
内訳： 一般・会員 35 名，一般・非会員 15 名，招待 1 名
学生・会員 0 名，学生・非会員 56 名
コンピュータソフトウェア誌への研究会推薦論文：
通常論文として 1 件， レター論文として 6 件を推薦.

日本ソフトウェア科学会大会 FOSE 研究会セッション

日時： 2019 年 8 月 27 日-29 日
場所：芝浦工業大学芝浦キャンパス
コーディネータ：門田 暁人 (門田暁人)
発表件数：11 件

コンピュータソフトウェア「ソフトウェア工学の基礎」特集号

特集号編集委員: 門田暁人（代表者，岡山大学），森崎修司（ゲストエディタ、名古屋大学），大平雅雄（ゲストエディタ、和歌山大学），阿萬裕久（愛媛大学），沢田篤史（南山大学），杉山安洋（ゲストエディタ、日本大学），花川典子（阪南大学），高田眞吾（慶應義塾大学），鷲崎弘宜（ゲストエディタ、早稲田大学）
投稿数：12 件（通常 4 件 レター 8 件）
FOSE2019 開催報告 (トピックス)

(5) 「インターネットテクノロジー」研究会（主査：藤本衡）

研究会の趣旨

インターネットを中心とするコンピュータ技術やネットワーク技術、およびこれらの運用やアプリケーションの研究・開発に関しての討議を行なう場を設け、ネットワーク技術の発展に寄与することを目的とする.

2019 年度活動報告

主査: 藤本　衡 (東京電機大学)
活動概要: 無し
特記事項: 2020 年 3 月 3 日に主査から本研究会を今年度で解散したいという要望が提案され，3 月 12 日に開催された企画委員会と 3 月 17 日に開催された理事会で承認された.

(6) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田俊行）

昨年度までより引き続き，ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的に活動を行った.

主査: 前田 俊行 (千葉工業大学)
運営委員: 大場 勝 (日産自動車), 石井 大輔 (北陸先端科学技術大学院大学), 阿部 洋丈 (筑波大学), 松野 裕 (日本大学)

第 17 回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2019) の開催

日時: 2019 年 12 月 5 日 (木)・6 日 (金)
場所: 千葉工業大学 東京スカイツリータウンキャンパス
幹事: 大場 勝, 石井 大輔, 阿部 洋丈, 松野 裕
本分野の研究者間・学生間のつながりの構築を目指してワークショップを開催し，10 件の論文発表と 5 件のポスター発表があった．また 3 件の招待講演を行った．

(7) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原聡）

JWEIN2019 at 修善寺 日程: 2019 年 9 月 1 日〜9 月 3 日

場所: 伊豆マリオット修善寺
プログラム委員長: 栗原 聡（慶應義塾大学）
発表：l 4 件，招待講演 9 件含む，全体討論セッションにて構成
参加者：25 名

(8) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査：橋本正樹)

研究会運営委員会の構成

主査：
橋本 正樹 （情報セキュリティ大学院大学）
リエゾン企画委員：
中里 翔太 （木更津工業高等専門学校）
運営委員：
井垣 宏 （大阪工業大学）
伊藤 恵 （公立はこだて未来大学）
大久保 隆夫 （情報セキュリティ大学院大学）
大場 みち子 （公立はこだて未来大学）
粂野 文洋 （日本工業大学）
田原 康之 （電気通信大学）
藤原 賢二（豊田工業高等専門学校）
本田 澄 （大阪工業大学）
森本 千佳子 （東京工科大学）
吉岡 信和 （国立情報学研究所）
吉田 則裕 （名古屋大学）

第 36 回大会研究会 rePiT セッションの実施

4 件の登壇発表からなるセッションを実施した．

第 6 回実践的 IT 教育研究シンポジウムの主催

日程：2020 年 1 月 22 日（水）
開催場所：公立大学法人首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス
主催：日本ソフトウェア科学会 実践的 IT 教育研究会
共催：文部科学省 成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業 enPiT2
9:20 開会

9:30-10:30 [一般講演 1]

○学習者のモデルを取り入れたマルチエージェントシミュレーションによる成績予測（S）

芳野洸太 (Future University Hakodate), 竹川佳成 (Future University Hakodate), 平田圭二 (Future University Hakodate)

○サイバーセキュリティインシデント発生時におけるシナリオ型組織間コミュニケーション訓練の設計と評価

Masato Yamanouchi (Keio University), Motoshi Sakakura (Hitachi, Ltd.), Takehiko Ooshima (Hitachi Academy Co., Ltd.), Hideki Sunahara (Keio University)

○卒業生・企業人・教員のチームティーチングによる実践的 ICT 人材育成教育（S）

Michiko Oba, Yoh Shiraishi (公立はこだて未来大学)

10:45-12:00 [招待講演]

Society 5.0 に向けた IoT・AI デジタル人材育成

- enPiT-Pro スマートエスイーの成果と展望を中心に -

鷲崎 弘宜 教授 (早稲田大学理工学術院基幹理工学部情報理工学科)

12:00-13:15 昼休憩

13:15-14:35 [一般講演 2]

○自己評価と客観評価の変化に基づく実践的人材育成コースにおける教育効果測定の報告（S）

神田哲也 (Osaka University), 福安直樹 (和歌山大学), 市川昊平 (奈良先端科学技術大学院大学), 佐伯幸郎 (神戸大学), 楠本真二 (Osaka University)

○小型自律移動ロボットカーを用いた機械学習教育のための教育コンテンツの検討（S）

Makoto Horiguchi (Osaka Institute of Technology), Sota Yokoyama (Osaka Institute of Technology), Hiroshi Igaki (Osaka Institute of Technology), Sachio Saiki (Kobe University)

○東京工科大における価値創造人材育成の取り組み（S）

Chikako Morimoto (Tokyo University of Technology), Kazuya Tago (Tokyo University of Technology), Shigeru Hosono (Tokyo University of Technology), Jun Yamaguchi (Tokyo University of Technology)

○ PBL におけるコミュニケーションツールを用いた非同期デイリースクラム実施の試み (S)　伊藤恵 (公立はこだて未来大学), 日戸直紘 (公立はこだて未来大学), 立花虎太郎 (公立はこだて未来大学)

14:45-16:00 [一般講演 3]

○情報系教育における分野横断型ＰＢＬの定量的検証と有効性

三上昌也 (岡山大学), 萩原義裕 (岩手大学), 日脇隆弘 (岩手大学), 横平徳美 (岡山大学)

○全方位カメラを用いたグループディスカッションにおけるユーザの注視状況推定のためのディスカッション環境の検討と考察

谷川遼 (大阪工業大学), 井垣宏 (大阪工業大学)

○ソフトウェア開発 PBL における GitHub Flow を用いたインスペクションプロセスの設計とその実践　Yutsuki Miyashita (Tokyo Gakugei University), Yuki Yamada (Tokyo Gakugei University), Hiroaki Hashiura (Nippon Institute of Technology), Atsuo Hazeyama (Tokyo Gakugei University)

enPiT 関連教員交流会

16:00-17:00

事例紹介

「チームで学ぶ情報ネットワーク構築・セキュリティ運用- enPiT-Security(第 2 期) と PBL 演習事例の紹介 - 」

広瀬　幸 (東京電機大学), 山内正人 (慶應義塾大学)

コンピュータソフトウェア誌 論文「実践的 IT 教育」特集の発行

論文「実践的 IT 教育」特集号を発行（2020 年 2 月刊行）．掲載論文全 4 篇のうち rePiT シンポジウム 2019 と連動して募集した計 3 篇の論文を掲載した．

(9) 「機械学習工学」研究会 (主査：石川冬樹)

2019 年

2019/04/26 MLSE セミナー: 深層学習をテストする・都内（国立情報学研究所）

2019/05/11 SysML2019 論文読み会・都内（国立情報学研究所）

2019/07/06-07/07 第 2 回機械学習工学研究会 (MLSE 夏合宿 2019)・神奈川（COLONY 箱根）

2019/10/18 MLSE 国際シンポジウム 2019・都内（一橋講堂）

2019/12/17 MLSE プロセス・事例収集 WG 第 1 回勉強会・都内（国立情報学研究所）

2020 年

2020/01/09 機械学習と公平性に関するシンポジウム・都内（一橋講堂）

2020/01/31 MLSE システム基礎 WG 第 1 回ワークショップ・都内（大手町ビル）

2020/02/10 MLSE 本番適用のためのインフラと運用 WG ワークフロー討論会・都内（NTT データ）

3.6 共催・協賛

会議等の共催・協賛・後援の承認件数は以下の通りであった．

共催： 0 件　　協賛： 14 件　　後援： 2 件

3.7 広報関係

本学会の Web ページ（http://www.jssst.or.jp/）および会員メーリングリスト（jssst_members@jssst.or.jp）を通じて，会員への情報提供を行った．Twitter のアカウント (JSSST_Info) を通じた広報活動も継続している．授賞については、Web ページ、Twitter を通じて、なるべく早く公知している．

3.8 基礎研究賞

ソフトウェア科学分野の基礎研究において顕著な業績を挙げた研究者に対して，基礎研究賞を授与しその功績を称える制度を 2008 年度に設けた．12 年目にあたる 2019 年度は，以下の 2 名を選定した．

・五十嵐淳氏 (京都大学))

授賞業績: オブジェクト指向言語の基礎理論および先進的なプログラミング機構の研究

授賞理由：五十嵐淳氏はプログラミング言語理論，特にオブジェクト指向言語に関する研究における日本の第一人者である．五十嵐氏は 1999 年に Java 言語のモデルである Featherweight Java を提案し，それを通じてオブジェクト指向言語の基礎理論を展開した [1]．また，Featherweight Java を通して型総称性（Generics）の機構とそのコンパイル方式の定式化を行い，現在ワイルドカードとして知られている機構の提案とその正しさの証明を行った [2]．この定式化の対象となった型総称性とワイルドカードの機構は Java 5 に取り入れられており，五十嵐氏による研究がその設計と実装の理論的基盤を与えることに貢献している．五十嵐氏は，これらの貢献により日本 IBM 科学賞，文部科学大臣表彰若手科学者賞，マイクロソフトリサーチ日本情報学研究賞，オブジェクト指向プログラミング研究の分野で国際的に最も権威がある Dahl–Nygaard Junior Prize を受賞した．また，その後も五十嵐氏は，静的型付けと動的型付けを単一の言語中で双方用いることのできる漸進的型付言語の研究 [3] や型情報にソフトウェア契約に関する情報を組み込んだ顕在的契約計算に関する研究 [4]，プログラム検証に関する研究 [5] 等において重要な業績をあげると共に，優秀な人材を輩出している．コミュニティへの貢献という面においても，Asian Association for Foundation of Software の運営委員長や ACM SIGPLAN International Conference on Functional Programming, ACM SIGPLAN Workshop on Partial Evaluation and Program Manipulation の運営委員，PEPM 2019, APLAS 2016, COP 13, FOOL 2008 におけるプログラム委員長を務めてきた．また，日本ソフトウェア科学会第 31 回大会のプログラム委員長や日本ソフトウェア科学会プログラミング論研究会主査等を務めている．以上の顕著な業績と貢献により，日本ソフトウェア科学会は，五十嵐淳氏に基礎研究賞を授与することとした．

出典：

1. Atsushi Igarashi, Benjamin C. Pierce, Philip Wadler: Featherweight Java: a minimal core calculus for Java and GJ. ACM Trans. Program. Lang. Syst. 23(3): 396-450 (2001)

2. Atsushi Igarashi, Mirko Viroli: Variant parametric types: A flexible subtyping scheme for generics. ACM Trans. Program. Lang. Syst. 28(5): 795-847 (2006)
3. Atsushi Igarashi, Peter Thiemann, Yuya Tsuda, Vasco T. Vasconcelos, Philip Wadler: Gradual session types. J. Funct. Program. 29: e17 (2019)
4. Taro Sekiyama, Yuki Nishida, Atsushi Igarashi: Manifest Contracts for Datatypes. POPL 2015: 195-207
5. Kohei Suenaga, Ryota Fukuda, Atsushi Igarashi: Type-based safe resource deallocation for shared-memory concurrency. OOPSLA 2012: 1-20

・門田暁人氏 (岡山大学)

授賞業績: 実証的手法を用いたソフトウェア信頼性に関する研究ならびにソフトウェアプロテクションに関する研究

授賞理由：門田暁人氏はソフトウェア工学の分野，特に実証的な手法によるソフトウェア信頼性やバグ予測に関する研究，ならびにソフトウェアプロテクションの研究を幅広く行い，数多くの業績をあげている．実証的な手法では，コードクローンの存在と信頼性の関連を分析し，予想に反して，コードクローンが存在するモジュールの信頼性がより高いことを示している [1]．また，バグ予測に関する研究では，テストのコストを考慮した評価 [2]，テスト工数削減量の見積もり [3] や，データの偏りの解消 [4] などにより，バグ予測技術の実用化への道筋を示している．さらに，被験者実験によりコードレビュー時の視線の移動を分析し，効率よくバグ発見を行うための視線の移動パターンを発見する [5] など，ユニークな研究も行っている．一方，ソフトウェアプロテクション技術として，Java のクラスファイルに擬似メソッドを電子透かしとして挿入する Watermark 法を提案している [6]．また，挿入を行わずに不正利用を検出する Birthmark という概念を定式化し，その具体的な方法を提案している [7]．これらの提案とともに，電子透かし挿入やプログラム難読化のツールを開発し公開している．このように門田氏は，既存のソフトウェア工学に様々な実証的な手法を取り入れ，新たな研究分野として開拓するなど，この分野に多大な貢献をしている．また，種々の国内外の会議の委員長や委員を務めるなど，分野の発展に大きく寄与している．よって，本学会は門田暁人氏に基礎研究賞を授与することとした．

出典：

1. A. Monden, D. Nakae, T. Kamiya, S. Sato, K. Matsumoto, Software Quality Analysis by Code Clones in Industrial Legacy Software, 8th International Software Metrics Symposium, pp. 87-94, 2002.
2. Y. Kamei, S. Matsumoto, A. Monden, K. Matsumoto, B. Adams, A. E. Hassan, Revisiting Common Bug Prediction Findings Using Effort-Aware Models, 26th International Conference on Software Maintenance, pp. 1-10, 2010.
3. A. Monden, T. Hayashi, S. Shinoda, K. Shirai, J. Yoshida, M. Barker, K. Matsumoto, Assessing the Cost Effectiveness of Fault Prediction in Acceptance Testing, IEEE Transactions on Software Engineering, Vol. 39, No. 10, pp. 1345-1357, 2013.

4. K. Bennin, J. Keung, P. Phannachitta, A Monden, S Mensah, Mahakil: Diversity Based Oversampling Approach to Alleviate the Class Imbalance Issue in Software Defect Prediction, IEEE Transactions on Software Engineering, Vol. 44, No. 6, pp. 534-550, 2017.
5. H. Uwano, M. Nakamura, A. Monden, K. Matsumoto, Analyzing Individual Performance of Source Code Review Using Reviewers' Eye Movement, Eye Tracking Research & Application Symposium, pp. 133-140, 2006.
6. A. Monden, H. Iida, K. Matsumoto, K. Inoue, K. Torii, A Practical Method for Watermarking Java Programs, 24th Computer Software and Applications Conference, pp. 191-197, 2000.
7. H. Tamada, M. Nakamura, A. Monden, K. Matsumoto, Design and Evaluation of Birthmarks for Detecting Theft of Java Programs, IASTED International Conference on Software Engineering, pp. 569-574, 2004.

2019 年度の基礎研究賞選定委員会の構成は次の通りであった．

増原英彦（理事長）
千葉滋（編集委員長）
河野健二　　風間一洋　　井上克郎　　五十嵐健夫　　筧捷彦

4. 選挙

2020 年度定時社員総会で任期満了となる役員に対する選挙は，2019 年 11 月 15 日に公示され，2020 年 1 月 10 日まで候補の推薦を受け付けた．その結果，役員選挙候補者（理事）として 6 名，役員選挙候補者（監事）として 1 名の立候補があった．全員が役員候補者選考委員会にて候補者として選考され，正会員による投票に付された．投票は，2020 年 3 月 2 日から 2020 年 3 月 15 日までの期間に行われた．同時に役員選挙候補者選考委員の正会員による審査も行われた．結果は次の通りであった．

役員候補者（理事）選挙　選出
　五十嵐淳　　石橋圭介　大囿忠親
　沢田　篤史　前田俊行　増原英彦

役員候補者（監事）選挙　選出
　吉岡信和

役員候補者選考委員　信任
　加藤和彦　萩谷昌己　中島震　田中二郎　徳田英幸

役員選挙候補者（理事・監事）全員がそれぞれ，社員総会における役員選任の対象候補者として選出され，また，役員候補者選考委員全員が信任を受けた．

なお，この選挙における選挙管理委員会の構成は次の通りである．

選挙管理委員会
　河野健二　佐藤周行　吉田健一

収支計算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

一般社団法人日本ソフトウェア科学会

（単位:円）

科　　目	予算額	決算額	差　異
Ⅰ．事業活動収入			
学会本部事業	14,390,000	15,574,743	-1,184,743
入会金・会費収入	9,300,000	9,974,000	-674,000
大会収入	1,800,000	2,370,034	-570,034
機関誌収入	2,890,000	3,022,000	-132,000
講習会収入	200,000	87,000	113,000
雑収入	200,000	121,709	78,291
基礎研究賞事業	200,000	3,000,000	-2,800,000
基礎研究賞副賞収入	200,000	3,000,000	-2,800,000
研究会事業	22,150,000	17,263,646	4,886,354
PPL	5,100,000	1,500,021	3,599,979
MACC	100,000	158,000	-58,000
ISS	8,000,000	7,128,031	871,969
FOSE	4,000,000	4,348,028	-348,028
DSW	600,000	181,000	419,000
EIN	500,000	130,000	370,000
rePiT	200,000	0	200,000
MLSE	3,300,000	3,818,566	-518,566
事業活動収入計	36,740,000	35,838,389	-901,611
２．事業活動支出			
学会本部事業	14,390,000	15,356,971	966,971
研究活動費	260,000	255,714	-4,286
大会業務費	900,000	2,034,685	1,134,685
機関誌購入費	8,950,000	8,611,314	-338,686
機関誌業務費	530,000	553,492	23,492
講習会業務費	200,000	122,584	-77,416
委託手数料	230,000	209,821	-20,179
租税公課	300,000	281,050	-18,950
事務局費	2,400,000	2,592,051	192,051
事務局変動費	360,000	380,959	20,959
雑費	250,000	315,301	65,301
予備費	10,000	0	-10,000
基礎研究賞事業	200,000	200,000	0
基礎研究賞副賞支出	200,000	200,000	0
研究会事業	22,250,000	17,667,475	-4,582,525
PPL	5,100,000	1,247,485	-3,852,515
MACC	100,000	158,000	58,000
ISS	8,100,000	7,203,570	-896,430
FOSE	4,100,000	4,355,568	255,568
DSW	600,000	154,791	-445,209
EIN	500,000	568,415	68,415
rePiT	200,000	34,786	-165,214
MLSE	3,200,000	3,944,860	744,860
事業活動支出計	36,840,000	33,224,446	-3,615,554
事業活動収支差額	-100,000	2,613,943	2,713,943
前期繰越収支差額	33,036,253	38,512,507	5,476,254
次期繰越収支差額	32,936,253	41,126,450	8,190,197

監査報告書

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
理事長　増原　英彦　殿

私は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

2020年5月 29 日
一般社団法人日本ソフトウェア科学会

監事　吉岡 信和　㊞

監査報告書

一般社団法人日本ソフトウェア科学会
理事長　増原　英彦　殿

私は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2)　業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

(1)　収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支および財産の状況を正しく示していると認める。

(2)　事業報告書の内容は真実であると認める。

(3)　理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

2020年5月28日
一般社団法人日本ソフトウェア科学会

監事　大場みち子　印

2020 年度～2021 年度役員選任の件

役職	任期	氏名	備考
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	石川冬樹	退任
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	石橋圭介	再任候補
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	大囿忠親	再任候補
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	光来健一	退任
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	高田眞吾	退任
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	高橋　伸	退任
理事	2018 年度総会～2020 年度総会	増原英彦	再任候補
監事	2018 年度総会～2020 年度総会	吉岡信和	再任候補
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	綾塚祐二	任期中
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	井上　拓	任期中
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	岩崎英哉	任期中
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	鵜林尚靖	任期中
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	馬谷誠二	任期中
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	風間一洋	任期中
理事	2019 年度総会～2021 年度総会	野田夏子	任期中
監事	2019 年度総会～2021 年度総会	大場みち子	任期中
理事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	五十嵐淳	新任候補
理事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	石橋圭介	再任候補
理事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	大囿忠親	再任候補
理事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	沢田篤史	新任候補
理事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	前田俊行	新任候補
理事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	増原英彦	再任候補
監事候補者	2020 年度総会～2022 年度総会	吉岡信和	再任候補

2019年度の役員・各種委員

理事

- 理事長: 増原英彦
- 副理事長: 高田眞吾
- 2019 年度選出: 綾塚祐二 井上 拓 岩崎英哉 鵜林尚靖 馬谷誠二 風間一洋 野田夏子
- 2018 年度選出: 石川冬樹 石橋圭介 大囿忠親 光来健一 高田眞吾 高橋 伸

監事

- 2019 年度選出: 大場みち子
- 2018 年度選出: 吉岡信和

編集委員会

- 編集委員長: 千葉滋
- 副編集委員長: 河内谷清久仁 河野健二
- 編集担当理事: 岩崎英哉 馬谷誠二
- 編集委員 青木利晃 青谷知幸 阿萬裕久 綾塚祐二 五十嵐悠紀 石井大輔
  石川冬樹 鵜川始陽 大場みち子 河合栄治 川端英之
  粂野文洋 小宮常康 沢田篤史 島慶一 住井英二郎
  宋剛秀 高田眞吾 中澤仁 中野圭介 花川典子
  林晋平 松田一孝 松野裕 門田暁人 横山大作
  吉田則裕

企画委員会

- 委員長: 風間一洋
- 企画担当理事: 風間一洋 綾塚祐二
- 企画委員: 青柳滋己 綾塚祐二 大越匡 來間啓伸
  角岡幹篤 前田直人 松野裕 横山大作
- 研究会リエゾン委員: 伊藤貴之 栗原聡 東藤大樹 土肥 拓生
  中里翔太 廣海緑里 松野裕 森畑明昌 吉岡信和

評議員

- 2015 年選出:
  牛島和夫 大沢英一 大堀淳 大蒔和仁 大和田勇人
  筧捷彦 片山卓也 亀山幸義 佐々政孝 佐藤周行
  佐藤雅彦 柴山悦哉 武市正人 田中英彦 田中譲
  玉井哲雄 近山隆 土居範久 都倉信樹 所真理雄
  中島震 中島秀之 中田育男 橋田浩一 平田圭二
  深澤良彰 二木厚吉 二村良彦 本位田真一 溝口文雄
  森下真一 米崎直樹 米澤明憲

役員候補者選考委員

- 2018 年選出: 加藤和彦 萩谷昌己 中島震 田中二郎 徳田英幸

2020 年度事業計画

1. 会員

会員を増やすための努力をするとともに，会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す．

2. 会議

2.1 2020 年度定時社員総会 (2020 年 6 月，都内にて開催)

2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

2.3 役員会 (年 6 回以上開催)

2.4 評議員会 (年 1 回開催)

3. 事業活動

3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する．採録論文の一部は，機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する．現在の特集号の充実を維持すると同時に，本誌部分にはトピックス記事などを優先して掲載し，より広く会員に読まれることを目指す．

会員が投稿しやすい機関誌を目指し，査読から掲載までのさらなる迅速化を図る．

特集号，推薦論文，大会同時投稿論文などを通して，研究会・大会との連携を深め，掲載論文の充実を図る．

二重投稿を明確化した投稿規定の改訂 (2018 年 6 月) により，二重投稿を未然に防止し，合わせて科学者としての倫理の周知に努める．

3.2 大会

第 37 回大会を以下の要領で開催する．

日　時：	2020 年 9 月 8 日 (火)〜10 日 (木)
	併設イベントは 9 月 7 日 (月) に開催予定
会　場：	九州大学 伊都キャンパス
大会委員長：	鵜林尚靖（九州大学）
運営委員長：	亀井靖高（九州大学）
運営副委員長：	東藤大樹（九州大学）
プログラム委員長：	住井英二郎（東北大学）
プログラム副委員長：	今井健男（Idein）
	松田一孝（東北大学）
広報委員長：	前田敦司（筑波大学）
登壇発表申込締切：	2020 年 7 月 9 日（木）
講演論文原稿締切：	2020 年 8 月 17 日（月）
デモ・ポスター発表申込締切：	2020 年 8 月 18 日（火）

3.3 講習会

学会会員サービスとしてチュートリアル・大学基礎講座を実施し，また，大会併設企画，および大会企画の立案・実施に協力する．2019 年度の実績も踏まえ，今後の実施の方向性について検討するとともに編集委員会との連携なども模索する．

3.4 研究会

次の 8 研究会が活動する．各研究会の活動予定は下記の通りである．

(1) 「プログラミング論」研究会（主査：八杉 昌宏）

- 運営委員会の構成の変更
  任期満了により，以下の運営委員 (敬称略) の交替を予定している．
  退任 (4 名): 青戸 等人 (新潟大学)，鵜川 始陽 (高知工科大学)，森畑 明昌 (東京大学)，南出 靖彦 (主査: 東京工業大学)
  新任 (3 名): 八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)，寺内 多智弘 (早稲田大学)，平石 拓 (京都大学)
  2020 年度の運営委員は以下の 9 名である (五十音順)．
  笹田 耕一 (クックパッド)，末永 幸平 (京都大学)，寺内 多智弘 (早稲田大学)，中澤 巧爾 (名古屋大学)，西崎 真也 (東京工業大学)，番原 睦則 (名古屋大学)，平石 拓 (京都大学)，松崎 公紀 (高知工科大学)，八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)
- コンピュータソフトウェア誌の「プログラミングおよびプログラミング言語」特集号
  PPL 2020 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定
- 第 18 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するサマースクール (PPL Summer School 2020) の主催
  日本ソフトウェア科学会第 37 回大会 併設
  幹事：未定
- 第 37 回大会 PPL セッションの実施
- 第 23 回プログラミングおよびプログラミング言語に関するワークショップ (PPL 2021) 主催
  日程：2021 年 3 月中
  プログラム共同委員長： 上野 雄大 (東北大学), 海野 広志 (筑波大学)
- FLOPS 2020 (The 15th International Symposium on Functional and Logic Programming) の主催日程：2020 年 4 月 23 日〜25 日（9 月に延期の方向で調整中）
  場所：秋田市にぎわい交流館
  General Chair：中野 圭介 (東北大学)
  Program Co-Chairs：Keisuke Nakano and Konstantinos Sagonas
- 2020 年度運営体制
  a) 主査
  八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)
  b) リエゾン企画委員
  西崎 真也 (東京工業大学)
  c) 運営委員
  笹田 耕一 (クックパッド)，末永 幸平 (京都大学)，寺内 多智弘 (早稲田大学)，中澤 巧爾 (名古屋大学)，西崎 真也 (東京工業大学)，番原 睦則 (名古屋大学)，平石 拓　(京都大学)，松崎 公紀 (高知工科大学)，八杉 昌宏 (主査: 九州工業大学)
  d) 専門委員: なし

(2) 「マルチエージェントシステムと協調計算」研究会（主査：大囿忠親）

- 合同エージェントワークショップ&シンポジウム (JAWS2020) 共催
- 全国大会にて MACC セッションを開催（検討中）
- MACC 研究会 1 回開催
- クラウドソーシング研究会に協賛
- 2020 年度運営体制
  - **a)** 主査
    大囿忠親 (名古屋工業大学)
  - **b)** リエゾン企画委員
    東藤大樹 (九州大学)
  - **c)** 運営委員
    櫻井祐子 (産業技術総合研究所) 清雄一 (電気通信大学)
  - **d)** 専門委員
    なし

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会（主査：寺田努）

- 第 28 回インタラクティブシステムとソフトウェアに関するワークショップ (WISS 2020)
  主催: 日本ソフトウェア科学会 インタラクティブシステムとソフトウェア研究会
  日時: 2020 年 12 月 16 日 (水)〜18 日 (金)（予定）
  場所: THE HAMANAKO (〒 431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1)
  プログラム委員長 寺田努 (神戸大)
  実行委員長 五十嵐悠紀 (明治大) 副実行委員長 真鍋宏幸 (芝浦工大)
  収入予定 8,000,000 円、支出予定 8,000,000 円
- コンピュータソフトウェア誌への WISS 2020 推薦論文の提案
  （WISS 2020 採録論文の一部の著者へ投稿を推奨予定）
- 情報処理学会インタラクション 2021 に協賛予定
- エンタテインメントコンピューティング 2020 に協賛予定
- 2020 年度運営体制
  - **a)** 主査
    寺田努 (神戸大)
  - **b)** リエゾン企画委員
    伊藤貴之 (お茶大)
  - **c)** 研究会運営委員
    綾塚祐二 (クレスコ)，五十嵐悠紀 (明治大)，伊藤貴之 (お茶大)，丸山一貴 (明星大)，宮下芳明 (明治大)，脇田建 (東工大)
  - **d)** 専門委員
    なし

(4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会（主査：門田 暁人）

- ワークショップ 1 回開催
  第 27 回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ FOSE2020
  日程：2020 年 11 月 19-21 日
  場所：三重県鳥羽市（予定）
  プログラム委員長：石尾 隆（奈良先端科学技術大学院大学），天嵜 聡介（岡山県立大学）
- コンピュータソフトウェア誌の「ソフトウェア工学の基礎」特集号（予定）
- 大会にて研究会セッションを開催（2020 年 8 月）
- 協賛予定の会議
  機械工学研究会 シンポジウム
  ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム（SES2020）
  ソフトウェアテストシンポジウム (JaSST)
  enPiT-Pro スマートエスイー シンポジウム
- 2020 年度運営体制
  a) 主査
  門田暁人（岡山大学）
  b) リエゾン企画委員
  阿萬 裕久（愛媛大学）
  c) リエゾン企画委員
  なし
  d) 専門委員
  なし

(5) 「ディペンダブルシステム」研究会（主査：前田 俊行）

- 概要

  2019 年度までより引き続き，ディペンダブルシステムの理論や実装に関する先導研究を推進するための討論・研究成果発表の場を設けることを目的にワークショップを開催する.

- 内容

  第 18 回ディペンダブルシステムワークショップ (DSW2020) の開催

  日時: 2020 年 12 月頃

  場所: 未定

  幹事: 大場 勝，石井 大輔，阿部 洋丈，松野 裕

- 予算

  収入：600,000 円

  支出：600,000 円

- 2020 年度運営体制

  a) 主査

  前田 俊行 (千葉工業大学 人工知能・ソフトウェア技術研究センター)

  b) リエゾン企画委員

  松野 裕 (日本大学)

  c) 運営委員

  大場 勝 (日産自動車)，石井 大輔 (北陸先端科学技術大学院大学)，阿部 洋丈 (筑波大学)，松野 裕 (日本大学)

  d) 専門委員

  なし

(6) 「ネットワークが創発する知能」研究会（主査：栗原 聡）

- 事業計画

  「ネットワークダイナミクス」と「ネットワークが創発する知能」をキーワードとして, コンピュータサイエンス, 物理学, 化学, 生物学, 経済学, 社会学など様々な分野の研究者の交流の場を提供するとともに, 当分野における高いアクティビティの発揮を目指す. これまでの論文募集型のワークショップ形式から，少数セミクローズ型の討論優先型の開催形式にシフトさせる計画である．これは，学際的な本研究会ならではの，先んじた研究テーマ開拓や研究連携の立ち上げを模索できるメリットを活かすための転換である.

- 活動予定

  JWEIN-DOCMAS 合同合宿

  日程:12 月上旬予定

  場所:未定

  プログラム委員長:未定

- 2020 年度運営体制

  a) 主査

  栗原聡 (慶應義塾大学)

  主幹事 風間一洋 (和歌山大学)，鳥海不二夫（東京大学）

  b) リエゾン企画委員

  栗原聡 (慶應義塾大学)

  c) 運営委員

  栗原聡 (慶應義塾大学)，風間一洋 (和歌山大学)，内藤祐介 (人工生命研究所)，中島秀之 (札幌市立大学)，廣津登志夫 (法政大学)，松尾豊 (東京大学)

  d) 専門委員（当研究会ではプログラム委員会と呼称）

  秋山英三 (筑波大学)，和泉潔 (東京大学)，今井哲朗 (東京情報大学)，岩田学 (筑波大学)，臼井翔平 (Sansan-DSOC)，岡田勇 (創価大学)，小川祐樹 (立命館大学)，海蔵寺大成 (国際基督教大学)，川村秀憲 (北海道大学)，小島一浩 (産業技術総合研究所 (AIST))，五斗進 (京都大学)，菅原俊治 (早稲田大学)，相馬亘 (日本大学)，斉藤和巳 (神奈川大学)，佐藤進也 (日本工業大学)，榊剛史 (ホットリンク)，澤井秀文 (情報通信研究機構 (NICT))，諏訪博彦 (奈良先端科学技術大学院大学)，苑田義明 (三菱重工業)，高野雅典 (株式会社サイバーエージェント)，谷本潤 (九州大学)，鳥海不二夫 (東京大学)，舘健太郎 (駒沢大学)，辻竜平 (近畿大学)，中村真理 (産業技術総合研究所)，生天目章 (AFOSR)，西成活裕 (東京大学)，福田健介 (国立情報学研究所 (NII))，藤原義久 (兵庫県立大学)，前野義晴 (日本電気株式会社)，松林達史 (NTT サービスエボリューション研究所)，三宅美博 (東京工業大学)，水野誠 (明治大学)，村田剛志 (東京工業大学)，守真太郎 (北里大学)，安田雪 (関西大学)，柳井孝介 (日立製作所)，山本仁志 (立正大学)，我妻広明 (九州工業大学)

(7) 「実践的 IT 教育」研究会（主査：吉田 則裕）

- 運営委員会の構成変更
  2020 年 4 月より主査は吉田則裕氏（名古屋大学）に，またリエゾン企画委員は名倉正剛氏（南山大学）に交代予定である．
- 第 37 回大会研究会での企画
  今年度に引き続き，第 37 回大会でも企画セッションを実施する予定である．
- コンピュータソフトウェア誌 rePiT 特集号
  第 5 回 rePiT 特集号を組む予定である．
- 第 7 回実践的 IT 教育研究シンポジウムの開催
  2021 年 1 月 20 日に，第 7 回実践的 IT 教育研究シンポジウムを開催する予定である．
- 2020 年度収支計画
  収入：200,000 円
  支出：200,000 円
  収支：0 円
- 2020 年度運営体制
  a) 主査
  吉田 則裕（名古屋大学）[新任]
  b) リエゾン企画委員
  名倉 正剛（南山大学）[新任]
  c) 運営委員
  井垣 宏（大阪工業大学），伊藤 恵（公立はこだて未来大学），大久保 隆夫（情報セキュリティ大学院大学），大場 みち子（公立はこだて未来大学），粂野 文洋（日本工業大学），田原 康之（電気通信大学），橋本 正樹（情報セキュリティ大学院大学），櫨山 淳雄（東京学芸大学），藤原 賢二（豊田工業高等専門学校），本田 澄（早稲田大学），森本 千佳子（東京工科大学），吉岡 信和（国立情報学研究所）
  d) 専門委員
  なし

(8) 「機械学習工学」研究会（主査：石川 冬樹）

- イベント予定
  - 2020 年 7/2-4 第 3 回機械学習工学研究会（MLSE 夏合宿 2020）・神奈川（レクトーレ湯河原）
  - 勉強会・ワーキンググループ集会 8 回
  - 「本番適用のためのインフラと運用ワーキンググループ」 ワークショップ
- 予算案

  第 3 回機械学習工学研究会 収入 300 万 支出 300 万

  勉強会・ワーキンググループ集会（8 回） 収入 25 万 支出 25 万

  「本番適用のためのインフラと運用ワーキンググループ」 ワークショップ 収入 25 万 支出 25 万

  計 収入 350 万 支出 350 万

  ※ 繰越金 16 万：現時点では，コロナウィルスによる MLSE 夏合宿 2019 キャンセル時の場合のキャンセル料に充てる予備費として計上.
- 2020 年度運営体制

  a) 主査

  石川 冬樹（国立情報学研究所）

  b) リエゾン企画委員

  土肥 拓生（ライフマティクス）

  c) 運営委員

  今井 健男（Idein），鵜林 尚靖（九州大学），江澤 美保（株式会社クレスコ），太田 満久（ブレインパッド），鎌田 篤慎（ヤフー），竹内 広宜（武蔵大学），土肥 拓生（ライフマティクス）， 橋本 順之（グリー），原 聡（大阪大学），宮崎 崇史（ヤフー），丸山 宏（Preferred Networks），守田 憲司（Preferred Networks），吉岡 信和（国立情報学研究所），吉崎 亮介（キカガク），吉田 則裕（名古屋大学）

  d) 専門委員

  なし

3.5 広報

本学会 Web ページ，会員メーリングリスト，Twitter 等の電子的な広報手段を整備・活用し，有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する．

3.6 賞の選考

フェロー，功労賞，基礎研究賞，研究論文賞，解説論文賞，高橋奨励賞を選考する．

2020 年度予算

2020 年度の単年度予算としては収入 38,275,000 円，支出 38,475,000 円を計上している．

1. 予算方針

近年の決算においては，本学会の財務収支は，法人化と支出削減努力によって，収入が支出を上回る状況で推移している．しかし，2017 年 12 月の会員数（正会員：771 名，学生会員：47 名，準会員：18 名，団体会員：5 名，賛助会員：8 口）と 2020 年 3 月の会員数（正会員：726 名，学生会員：38 名，準会員：18 名，団体会員：6 名，賛助会員：3 口）とを比較すると会員数は減少傾向にあり，今後の財務状況を注視していく必要があるとともに，正会員，学生会員ともに新規会員の方策を検討する必要がある．

2. 各費目の計上理由

入会金・会費収入予算は，前述の 2020 年 3 月の会員数（正会員：726 名，学生会員：38 名，準会員：18 名，団体会員：6 名，賛助会員：3 口）を基に見積もっている．研究活動費に関しては，研究論文賞 2 件，解説論文賞 2 件，高橋奨励賞 2 件分の予算，各表彰の際に手渡すトロフィー等の表彰アイテムの予算を計上している．大会については，昨年度の決算から収入，支出を見積もり，大会単体では黒字となる予算としている．機関誌購入費については，部数を減らして費用削減を図っており，サイバーページのボリュームも含めて，昨年度と同程度に見積もっている．機関誌業務費については，機関誌に付随する発送費・発送手数料，著者負担金請求手数料等を計上している．講習会については，FTD（参加費無料）を開催する予算を計上せず，1 回のみの開催予定として見積もっている．委託手数料については，ホームページ管理業者および会計管理のための税理士への委託料を計上している．また，消費税および住民税の概算額を租税公課に計上している．事務局費については，案内通知，督促状等，会員管理・会計等の年間業務委託費を計上し，事務局変動費として，機関誌，資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上している．基礎研究賞事業については，昨年度と同じ収支を予定している．研究会事業については，各研究会の参加費等による収入と，研究会実施のための支出を計上している．会員への還元や研究会活動の活性化を目的として，これまでの繰越金を支出することを予定しており，全体としては支出超過の計画となっている．

収支予算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

一般社団法人日本ソフトウェア科学会　　（単位：円）

科目	当期予算額	前期予算額	差異	備考
Ⅰ．収入の部				
学会本部事業	15,900,000	14,390,000	1,510,000	
入会金・会費収入	8,900,000	9,300,000	-400,000	
大会収入	2,000,000	1,800,000	200,000	
機関誌収入	3,325,000	2,890,000	435,000	
講習会収入	200,000	200,000	0	
雑収入	200,000	200,000	0	
基礎研究賞事業	200,000	200,000	0	
基礎研究賞副賞収入	200,000	200,000	0	
研究会事業	23,450,000	22,150,000	1,300,000	
PPL	6,900,000	5,100,000	1,800,000	
MACC	100,000	100,000	0	
ISS	8,000,000	8,000,000	0	
FOSE	4,000,000	4,000,000	0	
ITECH	0	350,000	-350,000	
DSW	600,000	600,000	0	
EIN	150,000	500,000	-350,000	
rePiT	200,000	200,000	0	
MLSE	3,500,000	3,300,000	200,000	
当期収入計	39,550,000	36,740,000	2,810,000	
２．支出の部				
学会本部事業	14,625,000	14,390,000	235,000	
研究活動費	295,000	260,000	35,000	
大会業務費	1,200,000	900,000	300,000	
機関誌購入費	8,500,000	8,950,000	-450,000	
機関誌業務費	500,000	530,000	-30,000	
講習会業務費	200,000	200,000	0	
委託手数料	230,000	230,000	0	
租税公課	400,000	300,000	100,000	
事務局費	2,600,000	2,400,000	200,000	
事務局変動費	440,000	360,000	80,000	
雑費	250,000	250,000	0	
予備費	10,000	10,000	0	
基礎研究賞事業	200,000	200,000	0	
基礎研究賞副賞支出	200,000	200,000	0	
研究会事業	23,650,000	22,250,000	1,400,000	
PPL	6,900,000	5,100,000	1,800,000	
MACC	100,000	100,000	0	
ISS	8,100,000	8,100,000	0	
FOSE	4,100,000	4,100,000	0	
ITECH	0	350,000	-350,000	
DSW	600,000	600,000	0	
EIN	150,000	500,000	-350,000	
rePiT	200,000	200,000	0	
MLSE	3,500,000	3,200,000	300,000	
当期支出計	38,475,000	36,840,000	1,635,000	
当期収支差額	1,075,000	-100,000	1,175,000	
（内、学会本部事業）	1,275,000	0	1,275,000	
（内、基礎研究賞事業）	0	0	0	
（内、研究会事業）	-200,000	-100,000	-100,000	
前期繰越収支差額	33,036,253	33,386,253	-350,000	
次期繰越収支差額	34,111,253	33,286,253	825,000	